

社内から始まる“ごみゼロ”とCO₂削減
循環を体験として根づかせる企業向けフードプログラム
「オフィス斗々屋」を2026年1月ローンチ

株式会社斗々屋（代表取締役社長：梅田温子）は、2026年1月より、全国の企業を対象に、パッケージフリーのオフィス設置型おやつとCO₂削減効果の可視化を組み合わせた、循環型フードプログラム「オフィス斗々屋（Office Totoya）」を正式に開始することをお知らせします。

本プログラムは、オフィス設置型おやつの提供を「消費で終わる福利厚生」から、「循環行動が蓄積され、企業価値として残る取り組み」へと転換するものです。使い捨てパッケージに頼らないオフィス設置型おやつの導入、サーキュラーエコノミーやウェルビーイングを学ぶ社員向けセミナー、環境貢献・意識変容を数値化する成果レポートを通じて、サステナビリティを理念ベースからデータに基づく実践へと引き上げます。

再エネ電力小売など脱炭素事業を中心にソーシャルビジネスを多方面に展開する株式会社UPDATERのウェルビーイング事業「みんなワークス」との連携により、日常の食体験そのものを、組織文化の形成や環境改善の指標として活用できる仕組みを構築しています。

“最短かつ低コスト”でサーキュラーエコノミーの変革も実現する社内の福利厚生

- ゼロウェイストおやつKIT
 - ・ オーガニック／フェアトレード／無添加
 - ・ パッケージフリー・リターナブル容器（将来はコンポストابلへ移行）
 - ・ 「いつものおやつ」がそのまま削減貢献指標に
- 社員向けセミナー
 - ・ サーキュラーエコノミーの最新潮流、企業導入事例
 - ・ ESG・ウェルビーイングに接続する実践的ノウハウ
 - ・ 行動を起点とする社内浸透
- 成果レポート
 - ・ 廃棄量削減、製造・廃棄プロセスにおけるCO₂削減量、意識データ
 - ・ 統合報告・採用PR・IR資料へ即転用可能
 - ・ CSRを“概念”から“証拠（データ）”



■ 開発背景・導入コスト

従来のランチ支援や軽食・お菓子提供などの福利厚生は健康訴求に留まり、企業文化や数値改善に結びつきにくいという課題がありました。

「オフィス斗々屋」は、食を通じた継続的な循環体験をオフィス内へ組み込み、**企業文化形成、CO₂削減、廃棄削減、採用競争力**を同時に実現します。

近年、斗々屋は京都府、京都市、京都商工会議所主催が主催する次代の京都ブランドとなり得る新たな担い手を発掘・表彰・支援するアワード「KYOTO Next Award 審査員特別賞」や環境省の「3R活動優良企業」に選出されるなど、ゼロウェイストの実践と社会実装において全国的な評価を受けてきました。

こうした京都発のゼロウェイスト・スーパーマーケットとして培ってきた**使い捨てに頼らない流通設計**の知見を企業の日常へ転用し、ごみを出さない福利厚生という新しい選択肢を提供することで、循環型社会の促進を目指します。

CSRなどの部署1名の人件費約2か月分で導入開始が可能。

社員は普段どおり軽食を楽しむだけで、CO₂削減量などの定量データと、行動変容・満足度といった定性価値の双方が積み上がります。

■ コメント

「『オフィス斗々屋』は、社員が日常の中で“循環”を自然に体験できる仕組みです。一人の行動が会社を変え、会社の姿勢が社会を変える。その連鎖を、日本中の職場から始めたいと考えています。」

- 株式会社斗々屋 代表取締役社長 梅田 温子

■ 会社概要

株式会社斗々屋 (Totoya Inc.)

事業内容：ゼロウェイスト・スーパーマーケット運営、循環型食プログラム提供、サステナブル流通設計

URL：<https://totoya-zerowaste.com/>

お問い合わせ：office-totoya@zerowaste.co.jp